

平成14年度水産大学校業務実績自己評価結果概要

- 1 教育研究業務の効率化 自己評価：A
（1）の「教育研究に関する自己点検及び外部評価の実施」は、自己点検の資料等の分析が不十分等でB、他の自己評価項目は、A
この結果、 - 1に含まれる自己評価項目（中期計画の最下位項目）総数（6）に占めるAの割合は、5 / 6（83%）であるので - 1はAとなる。

- 2 事務の効率的処理 自己評価：A

- 1 水産に関する学理及び技術の教育 自己評価：A
（2）の「専攻科」は、中期計画に示された海技関係免許の取得率の向上に関しては、全ての指標は「a」であったが、学生定員の充足状況(総務省意見)について指標として新たに加え評価したところB判定となった。
この結果、 - 1に含まれる自己評価項目総数（9）に占めるAの割合は、8 / 9（89%）であるので - 1はAとなる。

- 2 水産に関する学理及び技術の研究 自己評価：A
（1）- ア「水産情報経営に関する基礎的研究」は、研究課題と担当教育科目の分離が見られる課題があったこと等でB判定、及び（2）- エ「水産物の多面的高度利用に関する研究」は、研究成果がやや弱い（発表論文等）ことからB判定。
この結果、 - 2に含まれる自己評価項目数（11）に占めるAの割合は、9 / 11（82%）であるので - 2はAとなる。

- 3 教育研究成果の利用促進及び専門知識の活用等 自己評価：A
（1）- ウ「研修等による国際的貢献」は、海外技術協力に職員を派遣できなかったこと、（3）- エ「研究課題及び研究成果の公開等」は、研究者情報データベースのホームページでの公開ができなかったこと、（4）- イ「国内外の大学、試験研究機関との交流等」は、平成14年度に新たに建設された共同研究棟の有効活用による協同研究等の実施が十分でないことからB判定とした。なお、（4）- エ「図書館等の開放マニュアル作成等」は、館運営全般について改善の必要ありとして、部科別会議の判定「a」を総合評価会議で「B」判定としたが、外部評価委員会において施設開放マニュアルを15年度まで作成することについては、開放マニュアル素案はできており、計画通りに事業は進捗しているのでプロセス評価としては「A」であると再々評価となった。
この結果、 - 3に含まれる自己評価項目数（16）に占めるAの割合は13 / 16（81%）であるので - 3はAとなる。

- 4 その他の活動 自己評価：A
- 4に含まれる自己評価項目数（4）に占めるAの割合は4 / 4（100%）であるので - 4はAとなる。

財務関係は、3指標ともA評価であり、 はAとなる。

短期借入金の限度額

短期借入は行わなかったため、評価しなかった。(改正評価基準参照)

及び は、評価しない。

- 1 施設・船舶・設備等の整備

自己評価：A

- 2 人事に関する計画

自己評価：A

- 2に含まれる自己評価項目数(3)に占めるAの割合は3/3(100%)であるため、- 2はAとなる。

平成14年度 水産大学校業務実績自己評価明細表

独立行政法人水産大学校中期計画	総合評価・外部評価				
	事項	基礎項目	1つ下の項目	最下位項目 ^自己評価項目 ↓	評価
<p>業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>独立行政法人水産大学校（以下「大学校」という。）においては、業務を計画的に管理運営し、効率化を図る。また、業務運営の効率化と社会的要請に的確に対応するため、以下のことを行うとともに、運営費交付金を充当して行う管理運営及び業務に要する経費について、中期目標の期間中、人件費を除き毎年度平均で少なくとも前年度比1%の経費節減を行う。</p>					
<p>1 教育研究業務の効率化</p> <p>(1) 教育研究に関する自己点検及び外部評価の実施 教育研究活動に関する、大学校自ら実施する自己点検及び外部評価の結果を公表する。また、自己点検及び外部評価の結果を公表する。また、自己点検及び外部評価の結果を公表する。また、自己点検及び外部評価の結果を公表する。</p> <p>(2) 職員の業績評価 教育職員の評価に当っては、教育研究実績とともに、水産業及び地域社会への貢献、大学校運営等への貢献、若手教育職員育成の実績を勘案することとする。これら評価の結果は大学の管理運営に反映させ、業績等に関して大学評価・学位授与機構の審査を受けることとする。</p> <p>(3) 職員の資質の向上 若手職員に積極的に国内外留学及び研修等をさせ、資質の向上に努める。また、大学、行政部局、他の独立行政法人及び民間機関等と人事交流を行う。これらにより業務の活性化と充実を図る。</p> <p>(4) 教育研究の支援の高度化・効率化</p> <p>ア 建物、光熱水供給システムなどは、アウトソーシングなどにより保守管理を充実させ、常時、最適な使用条件を維持する。</p> <p>イ 知的所有権や情報管理等の高度の専門的知識を必要とする支援業務の職員には、研修等に参加させ高度の専門的知識・技術を習得させる。</p> <p>ウ 練習船については、業務の適正かつ効率的な実施の確保のため、業務実施上の必要性及び既存の船舶の老朽化等に伴う船舶の整備改修等を行う。</p>	1			A	
			(1)		B
			(2)		A
			(3)		A
			(4)		A
				ア	A
				イ	A
				ウ	A
<p>2 事務の効率的処理</p> <p>事務の簡素化・統一化を図るために、事務連絡のネットワーク化、会計処理、発注業務のコンピュータ化を進める。このことにより、消耗品、備品等の発注から納入までの期間の短縮化、提出書類の電子化など効率化を図る。また、事務等の電子化・ペーパーレス化を進める。</p>	2				A

イ 国及び地方公共団体職員等の研修を毎年1回以上行う。	イ	A
ウ 水産先進国として、資源管理技術、つくり育てる漁業技術及び知識の修得のための外国人研修を毎年2回行うとともに、海外技術協力、水産に関する高等教育の支援等の国際的な貢献を充実する。	ウ	B
(2) 公開講座等の開催 大学校の教育研究の成果の普及や資源管理の推進及びつくり育てる漁業の振興、安全な食料の供給など水産及び策についで啓蒙を図るとした公開講座・講演会を毎年1回以上開催する。	(2)	A
(3) 業務の成果の普及	(3)	
ア 大学校の研究業績の公表を目的として、水産大学校研究報告を毎年4回発行する。	ア	A
イ 研究業績は、水産大学校研究報告、国内外の学会等で論文等として毎年70件以上公表する。 ウ 専門書、啓蒙書、専門誌等への寄稿、講演会及びセミナーの講師派遣等を積極的に行い、成果の普及に努める。	イ	A
エ 研究課題及び研究成果の公開、公表、広報等を目的として、水産大学校教育職員研究課題・業績一覧を毎年発行するとともに、データベース化してインターネットホームページなどで積極的に公開する。	エ	B
オ プレス発表を行い、主要成果をマスコミ等に発表するなど広報活動を強化し普及に努める。	オ	A
カ 研究成果のうち特許等の知的所有権となりうるものについては、積極的に出願して、特許権の取得に努めるとともに、その利活用等により成果の普及を図る。	カ	A
(4) その他活動	(4)	
ア 国、地方公共団体、水産団体、民間企業等の受託事業を実施する。	ア	A
イ 国内外の大学・試験研究機関等と、国際的な連携・協力、交流を行い、大学校が実施する教育研究の深化とレベルアップに努める。 なお、共同研究棟の整備・充実に努めるとともに、その有効利用を図る。	イ	B
ウ 行政機関、水産関係団体及び民間企業等に対し技術相談・指導を行う。	ウ	A
エ 図書館及び標本館等を開放して、水産業界からの専門的ニーズにこたえるとともに、地域に開かれた教育研究施設として地域住民等の生涯教育の一端を担う。このための施設等開放のマニュアルを平成15年度までに作成する。	エ	A
オ 国、地方公共団体、水産関係団体の委員会・審議会等には委員として積極的に協力するとともに、日本水産学会等の学協会の発展のための指導、協力を行う。	オ	A
カ 練習船による社会的貢献 北方墓参等の社会的貢献のために練習船を活用する。	カ	A

<p>4 その他の活動</p> <p>(1) 授業料免除制度 経済的理由による学業継続困難者で成績優秀者については、授業料免除制度を適用し、支援する。</p> <p>(2) 学生生活支援 クラス担当教員制度による相談や看護婦による相談と簡単な治療、学校校医制度による相談等に加え、メンタルヘルス対策の導入に努める。また、老朽化している寮の整備を行う。</p> <p>(3) 就職支援 就職支援は、水産業及びその関連分野への就職の確保とともに、少子化時代を迎え、入学志願者の確保、定員の安定確保のための対策としても重要であり、その充実に努める。 なお、就職支援強化のため、企業からの情報収集・企業への情報発信（PR誌への掲載等）及び国・地方公務員採用試験の傾向と対策についての専門講師による指導、就職の手引き書の作成、教育職員による企業訪問活動の充実強化に努める。</p> <p>(4) 課外活動支援 体育施設の整備・維持管理の充実、クラブ指導体制の強化、本校の特徴が出せるクラブの育成等、課外活動支援を充実する。</p>	4			A
<p>予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画</p> <p>1 予算</p> <p>(1) 予算（単位：百万円） （表略）</p> <p>(2) 運営費交付金の算定ルール ア 平成13年度については積み上げ方式とする。 イ 平成14年度以降については、次の算定ルールを用いる。 （算定ルール 省略）</p> <p>2 収支計画（単位：百万円） （表略）</p> <p>3 資金計画（単位：百万円） （表略）</p>				A
<p>短期借入金の限度額 3億円 （想定される理由） 運営費交付金の受入れが遅延。</p>				
<p>重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画なし</p>				
<p>剰余金の使途</p> <p>1 学生生活支援のための、授業料免除制度の充実及び水産 大学奨学金制度創設の原資</p> <p>2 教育研究充実のための、教育研究機器購入費等</p>				
<p>その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>1 施設・船舶・設備等の整備 施設整備計画 業務の適正かつ効率的な実施の確保のため、業務実施上の必要性及び既存の施設、設備の老朽化等に伴う施設及び設備の整備改修等を計画的に行う。</p>	1			A

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育研究業務の効率化	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	(1) 教育研究に関する自己点検については、自己点検委員会で15年度導入に向けた作業を行い、方法等について取りまとめた。 (2) 職員の業績を適正に評価し、特別昇給や人事に反映させた。 (3) 職員の資質向上のため、行政研修や学会等に事務職員、若手教育職員等を積極的に派遣した。 (4) 建物等の維持管理の外部委託によるコスト削減、専門知識・技能研修への派遣及び練習船の整備・改修等により教育研究業務を効果的に実施した。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

平成 1 4 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 事務の効率的処理	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	契約事務の期間短縮のための電子媒体発注方式移行の検討・準備、学内LANを使った事務処理の迅速化及びペーパーレス化を推進し、事務処理等の迅速・効率化を図った。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 水産に関する学理及び技術の教育	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	(1) 本科では、FD 研修会の開催並びにシラバス及び学生による授業に関するアンケート調査を導入し、教育の充実に努めた。 (2) 専攻科では、海技関係免許を 85% 以上取得し、さらに上級海技免許にも合格した。 (3) 水産学研究科では、修了生全員が学位(修士)を授与されるとともに、担当教員の充実を図った。	
その他特筆 すべき事項	平成 14 年度に行われた大学評価・学位授与機構による教育の実施状況の審査の結果、本科教育の実施状況が適切と認められた。(平成 15 年 2 月 13 日付け評学機構学第 117 号)	
その他(意見)	(1) 農水省を主務省とする大学として、実学教育を更に充実し、水産に有為な人材育成を進めることが肝要である(外部評価委員意見)。 (2) EEZ に対する国等の対応が不十分のなかで、水産大学校専攻科の漁業取締教育等の充実が今後ますます期待される。(同)	

平成 1 4 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

<p>基礎項目名</p>	<p>国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 水産に関する学理及び技術の研究</p>	
<p>自己評価 ランク</p>	<p>Ⓐ : 計画に対して順調に業務が進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>	
<p>個別指標 ごとの評価</p>	<p>具体的指標</p>	<p>ランク</p>
	<p>別紙のとおり</p>	<p>別紙</p>
<p>当該基礎項目 における 具体的な業務</p>	<p>(1) 教育内容の改善・向上のための基礎的研究を重点的に実施した。</p> <p>(2) 行政ニーズ研究等を全学科で実施し、成果を教育や水産業界の振興に反映させた。</p> <p>(3) 大学・試験研究機関と共同研究を積極的に行い、技術開発に努めた。</p>	
<p>その他特筆 すべき事項</p>	<p>甲殻類について、新種の発見 (2 品種) があった。</p>	
<p>その他(意見)</p>	<p>水産大学校の研究は、水産業界、地域に貢献することも重要であり、各県の試験研究機関との連携の一層強化を期待する (外部評価委員意見) 。</p>	

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 教育研究成果の利用促進及び専門知識の活用等	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	(1) 漁業者、水産高校教諭、外国人等に対する研修を精力的に実施した。 (2) 公開講座を学外で開催するとともに、下関市の水族館で本校が開催した「オープンラボ」では 36,000 人が受講した。 (3) 水産大学校研究報告及び教員研究課題・業績一覧を発行するとともに、学会誌等へ 110 編の論文等を発表した。 (4) 34 件の受託研究実施、産官学技術交流への参加及び特許の取得に努めた。	
その他特筆 すべき事項	北方墓参の支援に対して、国務大臣（沖縄及び北方対策担当）から感謝状が授与された。	
その他(意見)		

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 4 その他の活動	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	(1) 経済的理由による学業継続困難者で成績優秀者の授業料を免除し、支援した。 (2) 臨床心理士によるメンタルヘルスの導入、クラス担当によるオフィスアワーの実施及び仮設寮の整備を行った。 (3) 職員の企業等訪問、就職ガイダンス等を強化するなど、学生の就職を支援をした。 (4) 本校の特色が出せるクラブに対し、積極的な支援を行った。	
その他特筆 すべき事項	女子カッター部が、全日本カッターレースで連覇した。	
その他(意見)		

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	予算（人件費の見積りを含む。）収支計画、及び資金計画 1 経費（業務経費及び一般管理費費）節減に係る取り組み	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	対前年度比 1% の配分節減を行うとともに、競争契約等により業務経費及び一般管理 費ともに節減を図った。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	予算（人件費の見積りを含む。）収支計画、及び資金計画 2 受託収入、競争的資金及び自己収入増加に係る取り組み	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	受託事業の積極的実施、学生定員・入学生の十分な確保により、受託収入並びに授業料、入学料及び入学検定料で年度計画を上回る収入を確保した。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

平成 1 4 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	予算（人件費の見積りを含む。）収支計画、及び資金計画 3 法人運営における資金の配分	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	中期計画・年度計画に基づき、人件費は必要最低限の配分を、業務経費、一般管理費は、教育・研究業務の円滑かつ効率的な実施を考慮した資金配分を行い、業務経費で 4 , 1 2 3 千円、一般管理費で 7 , 4 5 8 千円の節減が図られた。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

平成 1 4 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・船舶・設備等の整備	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	男子寮を個室化しプライバシーの保護及び増加する女子学生の生活支援を目的として 計画している学生寮の増改築工事に伴う、男子仮設寮の整備工事を実施し、新入生・在 寮学生を円滑に入寮させた。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

平成 14 年度 独立行政法人水産大学校業務実績自己評価票

独立行政法人水産大学校

基礎項目名	その他主務省令で定める業務運営に関する事項 2 人事に関する計画	
自己評価 ランク	(A) : 計画に対して順調に業務が進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている	
個別指標 ごとの評価	具体的指標	ランク
	別紙のとおり	別紙
当該基礎項目 における 具体的な業務 の進捗状況	(1) 人員計画では、教育職員の併任等により常勤職員の人員増を抑制するとともに、 1名を削減した。 (2) 人材の確保では、教育職員の採用を公募とし、透明性を確保するとともに、「教 員選考基準」を厳格に適用し、公平・妥当性のある選考を行った。	
その他特筆 すべき事項		
その他(意見)		

自己評価関係委員名簿（平成14年度）

独立行政法人水産大学校

1. 総合評価会議

は議長

氏名	職名
三本菅 善 昭	水産大学校理事長
内 田 和 良	水産大学校理事
三本菅 善 昭	水産大学校長（事務取扱）
鬼 頭 鈞	企画情報部長
寺 島 由 成	総務部長
濱 口 正 人	学生部長
井 元 康 裕	水産情報経営学科長
本 村 紘治郎	海洋生産管理学科長
横 田 源 弘	海洋機械工学科長
芝 恒 男	食品化学科長
高 橋 幸 則	生物生産学科長
村 井 武 四	水産学研究科長
田 淵 清 春	耕洋丸船長
水 谷 壮太郎	天鷹丸船長

2. 外部評価委員会

は議長

氏名	職名
三本菅 善 昭	水産大学校理事長
小 坂 安 廣	長崎県総合水産試験場長
森 本 稔	財団法人海洋生物環境研究所理事長
松 田 治	元広島大学大学院生物圏科学研究科教授
渡 辺 純 忠	山口市助役
山 村 正 樹	株式会社みなと山口合同新聞社本社 常務取締役水産本部長